

# クワカミキリ幼虫防除試験

(緑化種苗課) 白奥 智紀

(研究部 森林環境グループ) 杉本 博之

## 背景

クワカミキリは、生立木を加害する害虫として知られていたが、昨年、環境緑化園（山口市仁保中郷）でドウダンツツジ（以下ドウダンとする）等の緑化樹への被害が確認された<sup>(1)</sup>。特にドウダンは、折損や枯損が著しく目立ち、このままでは、環境緑化園内のドウダンがすべて無くなることが懸念された。そこで、ドウダンに穿孔している幼虫の防除方法を検討した。防除方法については、シャクナゲの害虫である、ソボリンゴカミキリ幼虫への防除方法を参考に行った<sup>(2)</sup>。

## 目的

環境緑化園に植栽されているドウダンに穿孔しているクワカミキリ幼虫の駆除方法を検討する。また、環境緑化園は一般公開していることから環境に配慮した微生物農薬（商品名 ボタニガード ES、以下 B とする）の効果も併せて検証する。

## 成果

- 1 駆除率は、キンチョールE（以下 A とする）97%、B 10倍希釈液 83%、B 500倍希釈液 60%、対照区(蒸留水) 0%であった。
- 2 Aは、即効性があり1週間後には60%を駆除した。Bは、即効性はないが効果があることが確認された。
- 3 生存している個体は、株を通して隣接している幹に移動していたため、薬剤が直接かからなかったと考えられた。
- 4 割材調査の結果、幼虫が根まで穿孔していることが確認された。これにより木が衰弱し、枯損の原因となっていると考えられた。
- 5 駆除方法は、まず、虫糞を取り除き、排糞孔から薬剤を注入する。後日、もう一度虫糞を取り除き、再度虫糞が出ている枝には薬剤を注入し、殺虫できるまでこの作業繰り返すことで駆除が可能である。また、株状になっているものは、すべての枝に注入するのが効果的であると考えられる。

## 引用文献

- (1) 杉本博之(2006). 農畜林試験研究成果発表会発表要旨. P81.82
- (2) 法眼利幸(2006). 日森関支研究発表要旨集57.P37

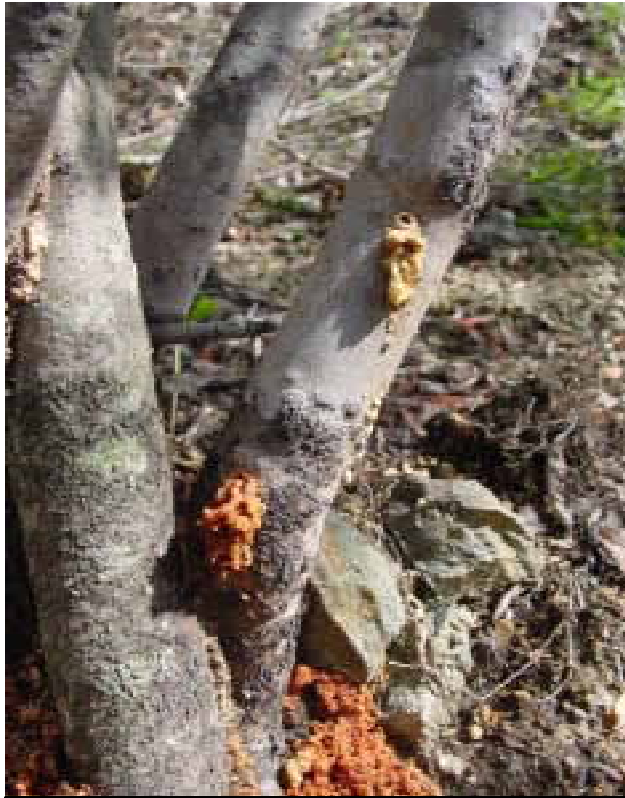


写真1 排糞孔から排出される虫糞

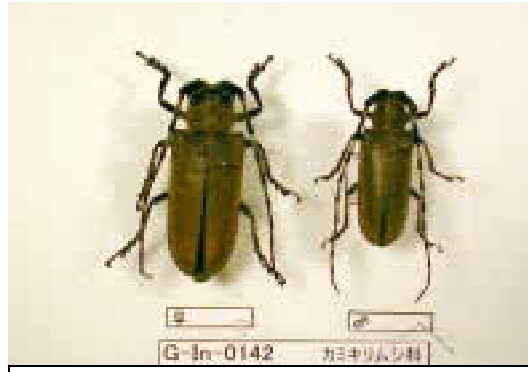


写真2 クワカミキリ成虫



写真3 クワカミキリ産卵痕

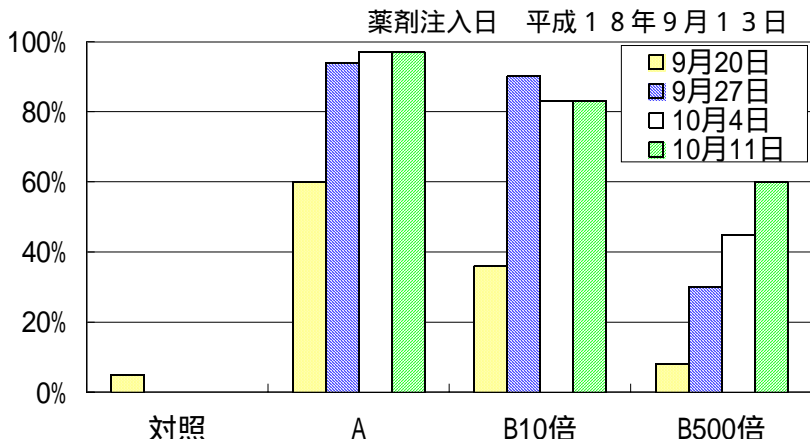


図1 1週間毎の排糞有無による駆除率  
排糞が無い場合を死亡したと仮定

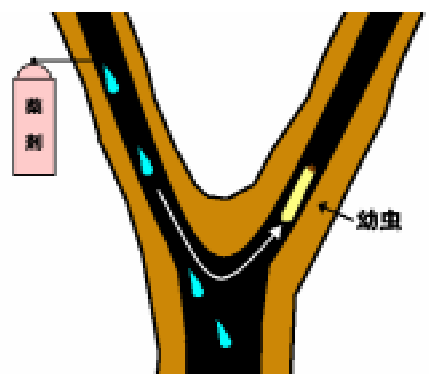


図2 薬剤注入方法

表1 1ヶ月経過後の虫糞有無による幼虫状況調査 割材日:平成18年10月16日

	虫糞有			虫糞無		
	調査本数	生存数	死亡数	調査本数	生存数	死亡数
対照区	2	2	0	0	-	-
A	0	-	-	5	0	5
B10倍	2	2	0	3	0	1
B500倍	2	2	0	2	0	2